

教科(科目)	数学 (数学Ⅰ)	単位数	3単位	年次	1年次
	必履修	必選択	総合選択	自由選択	
使用教科書	改訂版 最新 数学Ⅰ (数研出版)				
副教材等	改訂版 パラレルノート数学Ⅰ (数研出版)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①社会の価値創造に寄与できる力を育成します。 ②自分の居場所に主体的に粘り強く関わろうとする態度を育成します。 ③自分と他者の人権を共に尊重する姿勢を育成します。
カリキュラム・ポリシー	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①各教科・科目で習得した知識・技能を、他教科や他分野で活用するなど、教科横断的な教育活動を展開します。 ②地域と連携する活動を教育課程に位置づけ、授業での学びが地域の充実に活かされるような授業を行います。 ③人文・自然科学系列、福祉・家庭系列、工業技術系列、ビジネス・情報系列の4系列を設置して、個別最適な学びを軸とした主体的な学習を進め、幅広い進路希望に対応します。 ④選択授業、少人数授業を数多く設定し、個性を生かした主体的な選択や実践的・体験的な学習を重視することで、生徒の適性や理解度に合わせた丁寧でわかりやすい授業を実施します。 ⑤一人ひとりの人権の尊重のもと、発達支持的生徒指導を軸に、みんなが安心して学べる場所にする風土づくりに取り組みます。

2 学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。
- (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 指導の重点

- ・家庭学習を身につけさせるため週末課題を行う。また、1学年全員が数学Ⅰの基礎計算ができることを目指す。
- ・進学、就職等希望進路が多岐にわたっているため、少人数クラス展開で個々の希望、能力に合わせた高校数学基礎の習得を目指す。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・授業や提出課題への取り組み ・考査、小テストの分析 ・ノート、プリントなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業や提出課題への取り組み ・考査、小テストの分析 ・ノート、プリントなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業や提出課題への取り組み ・ノート、プリントなどの内容の確認 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1章 数と式 第1節 数と式	教科書 副教材	1. 多項式 2. 多項式の加法・減法・乗法 3. 展開の公式 4. 式の展開の工夫	9	提出物 課題考査
5	第2節 実数	教科書 副教材	5. 因数分解 6. いろいろな因数分解 7. 実数 8. 根号を含む式の計算	10	ワークシート 小テスト
6	第3節 1次不等式 第2章 集合と命題	教科書 副教材	9. 不等式 10. 不等式の性質 11. 1次不等式の解き方 12. 連立不等式 13. 不等式の利用 1. 集合と部分集合	10	提出物 ワークシート 小テスト
7	第2章 集合と命題	教科書 副教材	2. 共通部分、和集合、補集合 3. 命題と集合 4. 命題と証明	9	前期中間考査
8	第3章 2次関数	教科書	1. 関数 2. 関数とグラフ 3. $y=ax^2$ のグラフ	4	提出物
9	第1節 2次関数とグラフ	副教材	4. $y=ax^2+q$ のグラフ 5. $y=a(x-p)^2$ のグラフ 6. $y=a(x-p)^2+q$ のグラフ 7. $y=ax^2+bx+c$ のグラフ、研究 8. 2次関数の最大・最小 9. 2次関数の決定	10	ワークシート 課題考査 前期期末考査
10	第2節 2次方程式と 2次不等式	教科書 副教材	10. 2次方程式 11. 2次関数のグラフとx軸の共有点 12. 2次不等式 13. 2次不等式の利用	11	提出物 ワークシート
11	第4章 図形と計量 第1節 三角比	教科書 副教材	1. 鋭角の三角比 2. 三角比の利用 3. 三角比の相互関係 4. 三角比の拡張	10	小テスト 後期中間考査
12	第2節 正弦定理・ 余弦定理	教科書 副教材	5. 三角比が与えられたときの角 6. 正弦定理 7. 余弦定理	9	提出物
1	第5章 データの分析	教科書 副教材	8. 三角形の面積 9. 図形の計量 1. データの整理 2. データの代表値	10	ワークシート 課題考査
2		教科書	3. データの散らばり 4. データの相関	10	後期期末考査
3		副教材	5. 相関係数 6. 仮説検定の考え方	3	

計 105 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

基礎計算力向上対策 ①入学前課題 ②GW 課題 ③夏休み課題 ④冬休み課題 ⑤春休み課題
高校数学基礎習得対策 ① 長期休業中の補習 ② 平常時の週末課題、小テスト

8 担当者からの一言

- ・個々の理解を見ながら指導していきます。
- ・基礎計算を苦手とする生徒から数学を得意とする生徒まで、すべての生徒が希望する進路に対応できるようサポートしていきたいと思っています。